

## 「白糠町教育委員会の活動状況に関する点検・評価に関する意見」

北海道教育大学副学長 玉井康之

子どもの学習活動の基盤に関しては、元々道東は全体的に子どもの生活環境等において厳しい状況があり、さらにこの間のコロナ禍において、子どもの活動等が制限され、生活環境が困難な子どもの状況も拡大してきた。その中においても白糠町では学校・教師は家庭と連携した学習習慣づくり・放課後学習サポートや様々な「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を進めており、子どもの基礎的な知識・技能は定着している。

いじめの未然防止活動としては、白糠町では極めて特徴的な活動として、「子ども会議」を設けて、子ども達が主体的にいじめをなくそうとする姿勢を養っている。また小中高校との接続しながら、異学年間・異世代間を通じていじめ問題に取り組んでいる。さらにスクールカウンセラーや子ども支援員等の教育相談体制も充実させながら、いじめ問題に対応できる活動を強化しており、町全体でいじめ対策を推進していることは評価できる。

学校と地域との連携活動では、白糠町はコミュニティスクールを推進するとともに、「ふるさと教育」が伝統的に推進されてきている。白糠町では、今後も学校が地域と密着して、子どもが地域を探究できる学習活動を推進できる条件が整えられている。これらの学習活動のリソースとしては、社会教育のまちぐるみ活動やボランティア活動・「まちづくり出前活動」とも連携しながら運営されており、ふるさとの体験活動・歴史と文化の郷土芸能伝承活動・アイヌ文化保存活動など、裾野を広げたふるさと教育活動ができる基盤が整備されている。

ふるさと教育の一環としても位置づけられているふるさと給食では、白糠町の地域食材を活用し、町内の農漁業理解と生産者への感謝の気持ちを高めると共に、健康で安全な食生活習慣を推し進める食育活動を推進している。

特別支援教育は、特別支援学級に在籍する子どもの個別指導計画を策定しながら、指導内容の個別最適化を図ると共に、グレーゾーンに属する子どもや支援が必要な子どもへの指導計画も充実化している。文部科学省の新たな教員研修指針にみられるように、教員の資質能力として、新たに「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」が加えられることになったが、白糠町では、特別支援教育の充実化を踏まえ、新たな教員の資質能力の課題に対応できる体制が整っていると言える。

社会教育施設は、縫別自然の家・公民館・総合体育館なども整備されている。これら、町民・子どもの施設利用を促進できる基盤は整備されており、体力づくり・文化活動・健康づくり活動などに広く利用できるようになっている。またスポーツ団体・サークル活動にも活動支援を行うと共に、社会教育施設を活用したスポーツ教室やパークゴルフ大会等の事業をはじめとした健康づくり活動等の社会教育事業も積極的に推進されている。

以上のようなそれぞれの教育施策・事業をとらえると、白糠町では地域に根ざした独自の教育施策を推進しながら、積極的に教育振興を図っていることが評価できると言えよう。